

瀬戸市のオハナシ



今年で創業 100 年
世代が変わっても、続いていく
うつわづくりとおやつ時間

瀬戸市の中品野にあり、創業 100 年を迎える、染付窯屋「真窯」。昔から続いている習慣が、15時のおやつ時間。時間になると、土にまみれて働いていても、一旦、作業をとめて、家族みんなでテーブルを囲み、おやつを食べるそうです。

「昔はぼたもちをよく食べたね。レンガで新しく窯の天井をつくるときに、落ちてこないようにという願掛けもあったりしたんだよ」と、窯主の真也さん。後を継ぐ、4代目の真雪さんや妹の有記奈さんは、幼い頃、お母さんの美穂子さんが仕事の合間につくってくれたケーキをよく食べていたそう。その影響もあって、有記奈さんはパティシエの道へ。昨年には、工房に併設した「Bakeshop & CAFE MITTEN」もオープンしました。お店でつくっている焼き菓子も、今ではおやつ定番です。

家族みんなが好きなのは、おばあちゃんがよく作ってくれた、ごろごろとした食感のみかんジュース。「冬の定番だよ」と、今年も家族みんなが楽しみな様子。時代は変わっても、どれだけ忙しくても、ちょっとひと休み。これだけはかせませんね。

10月1日は瀬戸市の誕生日！



写真：(資) フォトスタジオ伊里

瀬戸市は昭和4年(1929年)10月1日に県下5番目の市として誕生しました。その後、別のまちだった水野村、幡山村、品野町も瀬戸市に仲間入りし、現在の瀬戸市の形となったのは昭和34年(1959年)のことです。写真は90年前のハイカラな建物の旧市役所。現在、瀬戸蔵が建つ場所です。